

こんな使い方をおすすめします！ 東京ベーシック・ドリル

【国語（漢字）編】

1 国語（漢字）の学習のポイント

「漢字」は、国語に限らず日々の読み書きにおいて必ず使用するもの、つまり生活に欠かせないものと言っても過言ではありません。しかし、学校では毎日新しい文字を習得しなければならないとあって、得手不得手の意識に差が生じやすく、それが出来不出来にも結び付いてしまいがちです。苦手意識をもたせないこと、取り除くこと、これがとにかく大切です。

学習においては、習得した内容を用いて解決できた時、応用できた時に定着（身に付くこと）が進むと言われています。自力で解決できた時の「分かった」「楽しい」「もっと知りたい」といった満足感や有用感が理解を促します。これを漢字学習で実現するために重要なポイントは、漢字を「意味語」として捉えることです。

一字一字、文字を記号的に認識しただけでは習得として不十分です。「意味をもつ言葉」として認識し、使えなければ定着しません。理解を深め、使いこなすために、「熟語作り」「文作り」に時間をかけることが大切です。

2 東京ベーシック・ドリルの有効な使い方

東京ベーシック・ドリル（国語）は、文の中に用いられる語句を読み書きする形で漢字を学習できます。文の筋を意識しながら漢字学習することで、主述関係をおさえられるようになり文法理解にも役立ちます。まさに、漢字を「意味語」として捉えるために効果的です。

次頁にベーシック・ドリルの活用法の例を載せましたのでご参考ください。この臨時休業中の課題としてのみならず、今後のお子様の学習の進捗に役立てていただければ幸いです。

2ページ目に具体的な使い方を示しています。ぜひご覧ください。

《文の中で漢字を理解する学習方法～東京ベーシック・ドリルを活用して～》

<p>① ドリルのとおり問題を解く。</p>	<p>→習熟具合をおさえるために行います。理解が不十分な文字、語句を確かめましょう。</p>
<p>② 保護者（家族）が作った類似問題を解く。</p>	<p>→各問ごと（①で間違えた問のみでもよいです。）、出題漢字を用いた類似文を作り、再度問題を解きます。類似文は、主語を本人や家族に置き換えたり、身近な事柄、実際のエピソードを組み入れたりすると、様子をイメージしやすく取り組む意欲が高まります。</p> <p>例)</p> <p>1 問題文</p> <p>きのう、こうえんにいった。</p> <p>類似文</p> <p>こんど、かぞくできぬたこうえんにいきたい。</p> <p>2 問題文</p> <p>かれのなげる たまはとてもはやすく、うつことができない。</p> <p>類似文</p> <p>○○くんのなげる たまははやすぎで、だれもうつことができない。</p>
<p>③ 自分で類似文を作って書く。</p>	<p>→②の問題を参考にしながら、自分で出題漢字を用いたオリジナル文を作ります。出題漢字を全て用いていなくても、意味の通る文にできていれば良しとするなどして負担感を減らすことが大切です。（文作りに主眼を）</p> <p>例)</p> <p>問題文</p> <p>きのう、公園に行った。</p> <p>オリジナル文</p> <p>こんど、○○ちゃんとフラット公園に行きたい。</p>
<p>④ 作った文の前後に文を加え、文章にする。</p>	<p>→③のオリジナル文の前後に別の文を付け加え、2～3文の「文章」を作ります。この作業を、様々な問題を通してくり返すことで、文章力も高まります。慣れてきたら「加える文の数を増やす」「文同士をつなげる時に接続詞を用いる」「心情表現を入れる」など条件を設けると作文練習にもなります。</p> <p>例)</p> <p>オリジナル文</p> <p>こんど、○○ちゃんとフラット公園に行きたい。</p> <p>オリジナル文章</p> <p>○○ちゃんは今ごろ何をしているだろう。こんど、○○ちゃんとフラット公園に行きたい。はやく学校がはじまらないかな。</p>

①と③だけ行う形でも学習効果があります。無理なく進めることができ、家庭の実態に応じて、取り組みやすい形で行ってみてください。